

(当センター事務局が公表資料をもとに作成)

平成 26 年度オゾン層等の監視結果に関する年次報告の概要（要旨）

(環境省発表資料(15 年 8 月 28 日)から)

- △ オゾンは地表から約 10-50km 上空の成層圏に多く存在し、太陽光に含まれる有害紫外線の大部分を吸収するバリアとなっています。しかし、フロン等によってオゾン層破壊が進んでおり、特に南極上空では毎年 8-12 月頃にオゾンホール（南極大陸の約 1.7 倍）が観測されています。フロン等の生産規制を受けて、オゾン層を破壊しない代替フロンが開発されましたが、強力な温室効果ガスでもあります。
- △ 地球規模のオゾン全量は 1980 年代から 90 年代前半にかけて大きく減少しましたが、その後減少傾向が緩和し、90 年代後半からわずかな増加傾向が見られます。しかし、70 年代と比べて、少ない状態が続いています。
- △ オゾン全量が大規模破壊発生前の 1960 年レベルまで回復する時期は、北半球では 2030 年頃、南半球では 2055 年頃と予測されています。一方、南極域の回復は 21 世紀末になると予測されています。
- △ オゾン層破壊物質として生産規制中の CFC（クロロフルオロカーボン）、HCFC（ハイドロクロロフルオロカーボン）の大気中濃度について、北海道の観測地点における観測では、前者は緩やかな減少が見られるものの、後者は急速に増加しています。また、オゾン層非破壊ながら地球温暖化係数が強力な HFC（ハイドロフルオロカーボン）の増加率は極めて高い。
 - *CFC：冷媒、発泡剤、洗浄剤等として使用されたオゾン層破壊物質。
 - HCFC：オゾン層破壊物質。先進国は 2020 年までに、途上国は 30 年までに生産消費を全廃の予定。
 - HFC：オゾン層非破壊物質。京都議定書の排出削減対象。
- △ HCFC 及び HFC は現在も多方面で利用されていること、過去に製造充填された機器装置等から大気中に放出されていることが反映されていると考えられています。CFC の生産消費はモントリオール議定書に基づき、先進国では 1995 年末までに、途上国では 2009 年末までに全廃されました。

以 上